

食育推進基本計画が策定されました

平成18年3月31日に第2回食育推進会議が開催され、食育基本法に基づく食育推進基本計画が策定されました。

この会議は、小泉総理大臣が会長、関係閣僚や民間の有識者が委員となっており、松田岩夫内閣府特命担当大臣(食品安全担当)も委員の一人として参加。

この計画は平成18年度から22年度

までの5年間を計画期間とし、食育の推進に関する施策の基本的な方針から、食育の推進目標や総合的な促進に関する事項などが示されています。

食品安全委員会も、食品に関するリスクコミュニケーションに積極的に取り組むことにより、食育の推進に貢献していきます。



食品に関するリスクコミュニケーション

「大豆イソフラボン」意見交換会

食品安全委員会では「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価(案)に関する意見交換会」を大阪(2月28日)と東京(3月2日)で開催しました。意見交換会は専門調査会専門委員による評価内容についての講演、消費者・健康食品製造者・大豆食品加工業者の各団体代表の方々によるパネルディスカッション、会場参加者との意見交換の三部構成。全体的に「大豆イソフラボンの安

全な一日摂取目安量の設定についての説明が理解しにくい」「大豆食品の安全性まで消費者に不安視されてしまっている」との意見が多く、高度に専門的な評価結果について、よりわかりやすいリスクコミュニケーションの重要性が改めて認識させられる内容となりました。

全内容は議事録としてホームページで公開しています。本号のP2~P3の特集と合わせて、ご参照ください。



▶ http://www.fsc.go.jp/koukan/dantai_jisseki17.html

「重金属と食品の安全性」意見交換会

3月30日、東京にて「重金属と食品の安全性に関する意見交換会」を開催しました。これは、食品に含まれるメチル水銀やカドミウム等の重金属についての理解を深めるためのものです。基調講演は、スウェーデンからお招きしたグンナー・ノルドバーグ博士及びモニカ・ノルドバーグ博士ご夫妻による「重金属-食品の安全性にどのように影響するのか?」と「食品毒性学から見たメタロチオネインの作用」。有害重金属が体内に入ってきた時に、どのようなメカニズムで体は守られるか?その限界は?といったことについて、日本の過去の公害等の例も引きながら示唆に富むお話がいただけました。詳しい内容や意見交換

の様子はホームページからご覧ください。



【講演者プロフィール】

●グンナー・ノルドバーグ博士
(Gunnar Nordberg, PhD [Med. Dr])
1972年、カドミウム代謝と毒性研究で博士号取得。現在、ウメオ大学公衆衛生臨床医学部産業環境医学科環境医学専攻終身教授。毒性学及び金属毒学や他の環境因子に関する著作多数。

●モニカ・ノルドバーグ博士
(Monica Nordberg, PhD [Dr])
1977年、メタロチオネイン及びカドミウムの研究により博士号取得。現在、国際微量元素学会副会長、IUAPC(国際純粋応用化学連合)名誉会員。生化学的金属毒性学に多くの業績を持つ。

▶ http://www.fsc.go.jp/koukan/dantai_jisseki17.html

■メールマガジンの配信開始!

食品安全委員会では、国民の皆様へ委員会の活動状況やお知らせをタイムリーにお届けするために、メールマガジン(通称「食品安全委員会e-マガジン」)の配信を6月2日(金)から開始しました。原則として毎週金曜日に配

信します。内容は、食品安全委員会などの会議結果概要や開催案内などの新着情報、食品安全委員のコラムなど。

配信希望の方は、食品安全委員会のホームページからご登録ください。

▶ <http://www.fsc.go.jp/sonota/e-mailmagazine.html>